



2019年
12月24日
火曜日

発行所
山陽病院
認知症サポート
チーム (DST)

ハンドベル演奏会のお知らせ

12月27日(金)の「お楽しみ会」で、病棟スタッフ主催のハンドベル演奏会が行われる。ハンドベル演奏会は昨年12月にも開催され、今年で2回目。演奏曲は12月らしいものを予定しており、入院患者に楽しんでもらえるよう、病棟スタッフたちは日々ハンドベルの練習を行っている。お楽しみ会に参加したごとのないスタッフも、ぜひご参加いただきたい。



ハンドベル演奏会 (イメージ)

※「お楽しみ会」は第1・3土曜日、第2・4金曜日の12時45分から行っている。

お楽しみ会、はたして効果は？

11月17日(日)の福山医学祭では心理師の佐野ひかりさんが、12月1日(日)の日本老年臨床心理学会では心理師の光戸利奈さんが、お楽しみ会の効果について研究発表を行った。

結果として、①お楽しみ会は入院患者の気分の改善に役立っている、②お楽しみ会の参加者全体が熱心に参加している、③認知機能と参加率は正の相関がある、といったことがわかった。このことから、重度認知症患者に対するレクリエーションの内容は検討していく必要があるだろう。また今後は、ADLやQOLとの関係も検討していく予定。さらに、お楽しみ会の成果を報告書として作成し介護者へ提供していくことで、退院後の患者のケアに役立つものとなっていくことを期待する。



第26回福山医学祭での研究発表 (心理師 佐野さん)



第2回日本老年臨床心理学会での研究発表 (心理師 光戸さん)

Good認知症対応記録の紹介

認知症対応の記録で素晴らしいものがあつたので2つ紹介する。普段は入浴拒否がある患者に関する、3階病棟T看護士の記録：「早くから入浴を促しておくことで抵抗なく入浴可能。声かけに笑顔あり、不穏なし。不穏なく経過できている。お風呂にも入れた！頻回な声かけを続けていこう。抑制帯を使用しない時間を増やしていこう」。

介入拒否や暴言の多い患者に関する、4階病棟M看護師の記録：「暴言も多々みられており、バイタル測定時にも抵抗強いので、適宜説明しながら行つた」。

いずれの記録からも、適切な声かけや説明により介入に成功していることがわかる。どのような声かけによりスムーズに介入ができるかを詳細に記録しておくことにより、他の同職種や他職種も介入がしやすくなる。今後このような記録を増やしていき、適切なケアを行っていききたい。

認知症タイプ別の自動車運転の危険性

認知症になると自動車の運転が大変危険になるため、すぐに免許証の返納が必要となる。

では、具体的にはどのような運転の危険があるのだろうか。認知症のタイプ別の危険性について左記に示す。

<p>アルツハイマー型認知症</p> <p>記憶や空間認知が低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転中に行き先を忘れる ● 駐車や幅寄せが下手になる 	<p>前頭側頭型認知症</p> <p>常識的な行動をとれなくなる 感情抑制が困難</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通ルール無視 ● 運転中のわき見
<p>脳血管性認知症</p> <p>意欲低下によりボーっとする 手足の動きが悪くなる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 注意散漫になる ● ハンドルやギアチェンジ、ブレーキペダルなどの運転操作が鈍くなる 	<p>レビー小体型認知症</p> <p>注意・集中力に変動あり パーキンソン症状が出現</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転技術にむらがある ● 運転操作が鈍くなる



「認知症と診断された方へ」ポスター

当院外来では、左の写真のポスターを渡し、注意喚起を行っている。